

石垣島 沖縄県

市蝶のオオゴマ
ダラ。パンナ森
林公園で



西表石垣国立公園の川平湾。
環境の変化でサンゴの死滅が
心配されるがグラスボートに
乗れば色鮮やかな熱帯魚や巨
大サンゴを確認できる

観光立国をめざして



旅行者と一緒に漂着ゴミや漁具などを拾い集める



国立石垣島天文台は日本で唯一
一般に公開。土星の輪が
はっきり見えた

平久保の森の入口付近に自生する
サガリバナ。奥には4万本以上の自
生群落が発見された。下の写真は真
夜中に開花、夜明けと共に散る、幻
の花、サガリバナ



「島の野草の9割
は薬草」と島のお
ばあ。ツルムラシ
キはニンニク炒め
で



文・撮影／大野尚子（旅行ジャー
ナリスト）『月刊アジア倶楽部』
元編集長。NHK「関西ラジオ
ワイド」の（アジア旅情報）を
17年間担当。レギュラー出演中。
日本旅のペンクラブ理事、日本
ベトナム経済交流センター顧問
朝日カルチャーセンター講師
2010年よりソウル観光広報
名誉記者。台湾埔里親善大使
韓国安東観光サポーターズ、「ベ
トナム家庭料理入門」（農文協）
『美食のすすめ』（PHP）など
共著書多数。イベント・コーデ
ィネーターとしても多忙。

ビーチクリーンや植樹に参加

「この自然を守らなければ観光客増
加は望めない」と石垣市観光交流協
会の宮平康弘前会長は「環境なくし
て観光なし」を訴え続けた。

中山義隆石垣市長も「癒しの島
を守らなければ」と、島の若者と共に
オニヒトデ駆除のために海に潜
る。

石垣島では3月5日のサンゴの日
から1週間を「サンゴウィーク」と
定めて、ビーチの清掃や植樹など
環境保全と美化活動が続けて来た。
ビーチクリーンは、サーファーの海
への感謝の気持ちから始まり、官民
一体、観光客も参加しての活動に発
展。今も毎月5日に「海LOVEネッ
トワーク」の皆さんによるビーチ清
掃が続けられている。

島北部の平久保半島の森に群生す
るサガリバナも貴重な島の宝だ。夜
に開花し、夜明けと共に散る幻の花
の群落を未来に残さなければと、地
元に保存会も生まれた。旅行者の植
樹も可能だ。ウミガメ繁殖地帯の保
全活動も始まった。ビーチの清掃や
植樹に参加することで原風景を守る
お役に立てる。観光のあり方のひと
つとして注目したい。